

船舶事故調査報告書

令和7年12月17日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和7年5月20日 20時30分頃
発生場所	京浜港東京第2区の東雲運河 晴海信号所から真方位122° 1,160m付近 (概位 北緯35° 38.4' 東経139° 47.0')
事故の概要	プレジャーボートSurf Zion IIIは、南西進中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和7年7月7日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート Surf Zion III、5トン未満（長さ7.51m） 235-38346東京、Surf Zion株式会社 ディーゼル機関2基、船内外機、4サイクル、出力220.66kW （合計）、回転数毎分3,300、4気筒、使用燃料軽油、機関製造 年月日不詳、平成10年3月進水
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	主機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者5人を乗せ、クルージングの目的で、東京都江東区所在のマリーナを出航した後、東雲運河を南西進した。</p> <p>船長は、主機冷却清水温度上昇の警報装置が作動し、速力が低下したので航行の継続を諦め、帰航を開始したところ、異臭を感じて機関室を確認し、機関室全体が浸水していることに気付いた。</p> <p>船長は、主機が停止したので、ビルジポンプを使用して排水作業を行い、110番通報するとともにBAN（ボートレスキューサービス：Boat Assistance Network）に救助を要請し、船長及び同乗者5人は来援した警察艇及びBAN所属船に救助された。</p> <p>本船は、BAN所属船にえい航され、マリーナに戻った。</p> <p>本船は、後日、整備会社による点検の結果、主機の金属製排気兼冷却海水船外排出管系統（以下「本件排出管」という。）に取り付けられたゴム製排出管（口径約3mm、長さ約65cm）（以下「本件ホース」という。）の取付用ステンレス製クランプバンド（以下「本件バンド」という。）が経年劣化により緩んで、本件排出管から本件ホースが抜けて冷却海水が機関室に噴出したことが判明した。</p> <p>船長は、本事故当日の発航前に機関室内を目視で点検したが、本件</p>

	<p>バンドの緩みなどの異状には気付かなかった。</p> <p>本件バンドは船長が約３年前に整備業者に依頼して新替えされていた。</p>
分析	<p>本船は、航行中、本件ホースが本件排出管から抜けたことから、冷却海水が機関室に噴出して浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、本件バンドが経年劣化により緩んだことから、本件排出管から本件ホースが抜けたものと考えられる。</p> <p>本件ホースは約３年前に新替えされていたものと考えられる。</p> <p>船長は、本事故当日、機関室の発航前点検を行っていたが、本件バンドが劣化している状況に気付かなかったものと考えられる。</p> <p>本件バンドの劣化は経年によるものであると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が航行中、本件排出管から本件ホースが抜けたため、冷却海水が機関室に噴出して浸水したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、主機の排気管系統にあるゴム製ホース及び締付け用バンド類を定期的に確認し、要すれば交換すること。 ・ 船長は、主機の警報装置が作動した場合、他の船舶が航行していない場所で漂泊するなどして、速やかに警報の原因を確認すること。